

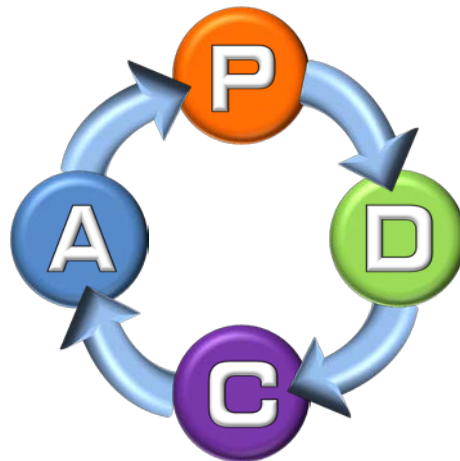
【第4章】 進行管理

VI. 総合計画の進行管理

1. PDCAサイクル

市では、第5次総合計画から取り入れている「PDCAサイクル」を第6次総合計画においても継承し、重要施策の“選択”と予算や人員、時間などの経営資源の“最適配分”を行い、行政サービスの効率性や効果を高めるなど、市役所の生産性の向上を図り、総合計画の目標達成を目指します。

具体的には、「P (Plan)」総合計画の策定と「D (Do)」実施の中で、「C (Check)」総合計画、施策の成果、市民目線での検証を行い、「A (Action)」検証結果を踏まえて施策の見直しや総合計画の改訂を一連のプロセスの中で実施していくことで、より目指す都市像が実現化していきます。



P 「Plan」：計画

目的、目標をしっかりと立てなければなりません。

事業をやること（アウトプット：道路交差点の改良、下水道を〇km 敷設する、研修会を〇回開催する、合宿を誘致するなど）が目標ではなく、その結果として市民にもたらされる利益（アウトカム：交通事故や交通渋滞が緩和される、水質・悪臭の改善により快適な生活環境になる、受講者が増え〇〇〇の体制が整う、宿泊客を〇〇人増やすなど）を客観的な数値で表すことで、誰もが分かりやすいものになります。

基本構想の実現化に向けた、基本計画の取り組みと目標、より具体化した実施計画（事務事業）の取り組みと客観的な数値目標を掲げて取り組みます。

D 「Do」：実行

総合計画の基本テーマの実現、計画の目標達成に向け、効率的かつ最善な遂行により実行していかなければなりません。

そのためにも市民と行政、市議会が連携と役割分担の中で、それぞれが最大限の力を出し合い、計画を実行していくことが重要です。

市では個々職員の資質を高め、効率的かつ意欲的に仕事に取り組み、組織力を発揮するとともに、市民、地域と一緒に頑張って取り組むことが重要です。

C 「Check」：評価

実施計画で定めた数値目標の達成度、事業の妥当性や適切性など、基本構想の達成に向け進んでいるか、市民目線での評価も取り入れ、評価していきます。

A 「Action」：改善

評価結果を基に、個々事務事業のみの視点だけではなく、総合計画の都市像達成に最善な手法、予算、人員配置も含め見直し（継続・拡大・縮小・休止・廃止・統合など）を行い、また、10年の期間で時代に即さない事案が発生したときには、総合計画自体の見直しを行っていきます。

